

第 1 回教育委員会臨時会会議録

令和 6 年 8 月 6 日（火）

場 所：第一・第二会議室

出席委員	教 育 長	雨 宮 和 人
	教 育 長 職 務 代 理 者	操 木 豊
	委 員	大 野 孝 儀
	委 員	佐 藤 有 里
	委 員	篠 原 朋 子

出席職員	教 育 部 長	橋 本 祐 幸
	教 育 総 務 課 長	津 田 智 宏
	教 育 指 導 支 援 課 長	荒 西 岳 広
	指 導 担 当 課 長 兼 総 合 教 育 セ ン タ ー 所 長	小 島 章 宏
	指 導 主 事	小 柳 津 章 文
	指 導 主 事	金 井 麻 衣 子

国立市教育委員会

付議案件

区 分	件 名	
報 告 事 項	1) 教科用図書の採択に関する要望書について (1件)	
議案第44号	令和7年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について	
議案第45号	令和7年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について	

○【雨宮教育長】 皆さん、こんにちは。暦ですと、明日 8 月 7 日、立秋ということなのですが、まだまだ暑さが続くような予報が出ております。ぜひ健康にはご留意を願いたいと思っております。

本日は、令和 7 年度から使用いたします中学校の教科用図書の採択ということが議題となっております。また特別支援教育のほうの教科書採択もございまして。ぜひ皆様方、慎重な審査をお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、これから令和 6 年第 1 回教育委員会臨時会を開催いたします。本日の会議録署名委員を大野委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

○【大野委員】 はい。

○【雨宮教育長】 よろしくよろしくお願いいたします。



○報告事項（1） 教科用図書の採択に関する要望書について（1 件）

○【雨宮教育長】 それでは、審議に入ります。最初に報告事項 1 「教科用図書の採択に関する要望書について」を議題といたします。

津田教育総務課長、お願いいたします。

○【津田教育総務課長】 要望は 1 件でございます。子どもたちが主権者の社会科教育を求める会より、「2025 年度使用開始の中学校公民の一部“教科書”が“愛国心”“君が代敬意表明”等を強制しているのは間違っていると、本市の教職員に周知頂きたい（併せて文科省・都教委に意見書を出して頂きたい）等の要望書～平和憲法を大切にしている本市の施策に沿ってほしい」の要望書を頂いております。

説明は以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。本要望書につきましては、採択議案に関わるものですので、前例に倣い、この場での意見等の取扱いを行わないということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。そのようにさせていただきたいと思っております。



○議題（2） 議案第 44 号 令和 7 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について

○【雨宮教育長】 それでは、議案第 44 号「令和 7 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。最初に事務局から説明をお願いいたします。

小柳津指導主事、お願いいたします。

○【小柳津指導主事】 それでは、議案 44 号「令和 7 年度使用国立市立中学校教科用図書の採択について」ご説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 13 条第 1 項に基づき、国立市立中学校で令和 7 年度から令和 10 年度の 4 年間使用いたします各教科の教科用図書につきまして、採択いただくこととなります。

国立市学校教科用図書採択要綱に基づき設置されました審議会の調査結果につきましては、さきで開催されました 7 月 23 日の定例教育委員会において、机上に配付しました資料のとおり、教科用図書審議会委員長からご報告させていただいております。また、5 月 27 日から 7 月 2 日まで国立中央図書館、国立市公

民館、国立中央図書館南市民プラザ分室において、教科用図書展示会を実施いたしました。市民等の皆様から33件のご意見を頂き、7月の定例教育委員会において配付させていただいております。

説明は以上になります。ご審議のほどよろしく願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま指導主事から説明を頂きました。それでは、審議に入りたいと思います。

7月23日開催の定例教育委員会で、教科用図書審議会から審議結果の報告を受けました。各教育委員におかれましては、審議結果やアンケートを基に、国立市の公立中学校にふさわしい教科用図書についての考えを深めていただいたことと思います。

それでは、教科ごとにご意見を頂きながら、令和7年度使用中学校教科用図書についての採択をしていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 では、そのようにさせていただきたいと思います。

まず、初めに「国語」からご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 それでは、「国語」についてですけれども、各社いろいろ工夫され、そんなところを垣間見ようと思ってきました。特に私、教育出版社の「学びナビ」とか、それから作者とか作家の作品との関連で『ふるさと』を巡る、そんなところはすごく魅力を感じたのですが、最終的には現行の光村図書、こちらのほうがいわゆる小・中9年間を見通した発達の段階を考慮した内容とか、それから高校との円滑な接続、この辺りの配慮とか、こういった視点で現行の光村図書出版を、と思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も光村図書を推したいと思います。理由は幾つかあるのですが、俳句をほとんどの教科書で学ぶことになっていると思いますけど、どの文章も俳句の可能性ということでいろいろ述べられていてすばらしいのですが、特に私がいいなと思ったのは、宇多喜代子さんが書いている文章が大変すばらしく、これはぜひ生徒に俳句の可能性ということに対して、この文章を読ませたいなと思ったことがあります。

あと、光村には鷺田清一さんの文章も載っていて、これも大変深い文章だと思いました。つまり、今、安易に分かり合うとか、通じ合うとか、触れ合うとか、そんな言葉が流れているわけですが、そういう言葉の洪水ではなくて、その言葉の背景にある体温とか、手応えとか、そういったものをきちんと感じてほしいという深い文章だと思いました。

あとは、山極寿一さんは国立ゆかりの人ですし、大変文章も面白いと思いましたし、この辺からして光村図書を推したいと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 結論としては、私も光村図書さんを推したいと思います。久しぶりに中学校の教科書を見ました。こんなにも進化しているのかということで、各社のそれぞれ力作を拝見して、ある意味驚いておりますが、国語という教科を、先ほどの操木委員からの話もありましたけれども、小・中・高と連携をし

ていることの大切さ、それといろいろな工夫があるのですが、例えば「学びのカギ」、「学びへの扉」、あるいは「思考の地図」とか、「語彙ブック」ですとか、様々な方向から「国語」という学びやすいようでもしかしたら難しい教科を中学生がどうやって学習していったらいいか。しかも今で言えば、主体的に学んでいけるかということの工夫が大変きめ細かくされていると感じました。

よって、光村図書さんを押ししたいと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 「国語」の教科、各社とも情報量がとても多いなと思いました。二次元コードもあり、三省堂社さんのデジタルテキストなどは地図も読めたりとか、動画があったりとか、そんなところも魅力を感じましたが、光村図書を私も推します。

それぞれの学年のページの初めに詩が載っていて、中1年生では、谷川俊太郎さんの「朝のリレー」だったり、中2、中3とだんだん少し学びが深くなるような選択ができているなと思いました。まず「国語」の一番初めに詩を見つめて、国語力を深めていただきたいなと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。では、私からもお話をさせていただきます。初めに基本的な姿勢ということで申し上げますと、審議会の研究結果ですね。こちらをやはり尊重したいと考えております。

また、生徒の立場から見たときに、慣れ親しんだ教科用図書ということも大切な要素だろうと考えたところでございます。

また、私の今回個別の視点ということも述べさせていただければと思うのですが、どういうところに着目したかということですが、主にしょうがい者理解ですとか、脱炭素、固定的性別役割分担、持続可能な社会づくりなどの記述、イラスト、写真とか、どのように配置されているかというところに着目したところでございます。

国語に関しては、結論としては光村図書ということで、やはりその各観点が4つぐらいあるわけですが、その評価が総じて高いところを受け止めさせていただきました。

その中で、とてもこれがいいなということですかね、印象に残ったものということで、光村図書で申し上げますと、昨今読書離れということがすごく言われていると思います。その中で国語の1年生の教科書ですかね。本の中の中学生というところがございまして、瀬尾まいこさん、梨木香歩さんの中学生を主人公とする小説を取り上げているのですね。その読書への関心を誘うところは、とてもよい素材だなと思ったところでございます。

では、皆さんの意見が出そろいました。皆さん、「国語」については、光村図書を採択するという意見が全員でございました。「国語」に関しては、光村図書を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「国語」に関しましては、光村図書を採択することにいたしたいと思います。ありがとうございます。

続きまして、「書写」に参りたいと思います。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 ただいまの「国語」は光村になりましたことを受けて、現場でよく聞く声として、「国語」と同じだと使いやすいという先生方の声も耳にすることがあります。その辺を考えていきたいなと思いま

す。そうすると光村図書になるかと思えます。

内容的にも、「書写ブック」の使い方とか、あと現場で評判がいいのは、日本画ですね。原寸大になっているという実用的な面でも、そんな意見を頂いております。

また、古文の竹取物語と同じ書体を使っているとか、そんなこととかいろいろありまして、光村図書を推したいと思えます。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も光村図書を推薦したいと思えます。国語と同じ出版会社ということで、非常にやりやすさということが言われるかと思えます。

あと、単独でこの「書写」の教科書を見ても大変見やすいなという印象を受けました。

以上が理由です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同様です。違う理由を申し上げますと、例えば分冊になっている「書写ブック」ですとか、筆頭に「書写スタートブック」ということで、小学校からの接続が十分に工夫されていること。それから漢字だけではなくて、仮名のことについて、あるいはアルファベットのことについて、などなど広く文字文化ということを捉えて構成していらっしゃる。さらには左利きの生徒への補助教材など多様な視点から作成していらっしゃると考えました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同様です。違う観点でお話すると、手書きのよさは何だろうということで、分かりやすく子どもに伝えられる表現があったりとか、自分らしい文字ということで、加古里子さんだったり、漫画家の長谷川さんだったり、その方を思い浮かべながらその方の文字を教科書に表していたりということで、生徒の心を引きつけるページが多いなと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、私のほうも「書写」は光村図書でよろしいのかなと思えます。各観点の評価が総じて高いということと、国語の授業と対応させながら書写指導ができるところが大きいのかなと思えます。

印象に残ったものとして、このような素材があったのですが、3年生のポスターで防災という部分が、書写の学習を生かしてポスターをつくと。そのことで地域防災に取り組もうという取り上げ方をしているのですけれども、とてもすごくよい素材だなと感じましたので、一言付け加えさせていただければと思います。

それでは、「書写」につきましては、皆さん、光村図書というご意見でした。光村図書を採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「書写」は光村図書を採択することといたします。

続きまして、「社会（地理）」についてでございます。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 それでは、東京書籍を推したいのですけれども、最初に教科書を開いたところに、世界の食事を見てみようということで、いろいろな国のおいしそうな絵が出てくるのですね。この食から入ることがすごく私は気に入りました。小麦粉はどうなるのか、どういう流れになるのか。国と国との間のいろいろな流通がこれから問題になってくる。その最初の問題提起として、おいしいそうなピザがあったり、フランス料理があったり。こういったところは、生徒たちもとても見やすい、そういう場所だという感じがしました。

また、イタリアの過ごし方、バカンスあるいはシエスタとか、そういったことも全然生活が違う日本とイタリアの比較なども面白かったですし、あとラストベルトの問題とか、それからルアンダの記載とか、その辺も大変興味がありました。

あと、インドについても、今後非常に発展するであろうインドに視点を当てて、その人口は今後世界一になるだろうという記述で、インドにもスポットを当てるところ。そのようなところから、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 例えばグラフとかが読み取りやすかったとか、文字の大きさとか、帝国書院さんも捨て難い部分があるのですけれども、審議員の報告にもありますけど、東京書籍のほうも情報量、それから学習のしやすさ、まとめ方、使いやすさ、そういう視点で見た報告も出ていますが、そういう意味でも現行の東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同様に東京書籍さんです。一番の理由は、主体的な課題設定と資料にもございましたけれども、探求課題ということをきちんと正面から取り組んでいらっしゃるなということを感じました。

それから、まとめについても、使用上の便宜の項目にありましたが、知識、理解、思考判断、表現力の課題、それぞれどういう見方で、子どもがこの地理という教科を学んでいけばいいのかというガイダンスがきちんとされていると感じましたので、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同様です。タイトルが分かりやすく、世界の姿、日本の姿という一言で、今日は何を学ぶのかということが明確であったり、篠原委員もおっしゃられていましたが、課題をつかんで追求していく、それをどうやって解決していくかということが分かりやすいヒントがたくさんあり、対話を通して子どもたちが話し合いながら、授業を進めやすいのではないかと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も東京書籍でよろしいと思います。各評価、各観点の評価が非常に高いと思います。

個別に関してコメントを少し加えさせていただきたいのですけれども、先ほど申し上げた、視点の部分なのですが、脱炭素ですとか、あるいはしょうがい者理解という部分については日本文教出版。持続可能な社会づくりについては全社ですね。固定的性別役割分担意識については教育出版が取り上げていただいていると。この辺はとてもいいことだなと思っています。

また、東京書籍に関して、第4章という大きな章立てで、持続可能な地域の在り方という設定をしているところはとても印象に残ったところでございます。

それでは、「社会（地理）」、こちらは全員東京書籍というご意見でした。東京書籍を採択することによってよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「社会（地理）」につきましては東京書籍を採択することといたします。

続きまして、「社会（歴史）」についてでございます。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 教科書ですね。前回の指導要領改定を受けたときには、各社大幅に改訂して、今回もその改訂された部分よりまた改訂された。9社ともそうなのですが、それぞれすばらしい教科書に仕上がっているなど、まず感想として持ちました。

では、どれを採択するかという基準になってきますと、やはり生徒たちが、最初冒頭にお話もありましたけど、生徒にとってどうなのだろうか。分かりやすいもの、それから教師にとってはそれを使って学習を進めやすいものが必然として出てきました。

私は東京書籍さんの教科書を推したいと思うのですが、使いやすさとか、分かりやすさということですね。年表のスケールインデックスにすごく興味を持ちましたし、学習課題が非常に明確で、何を学んでいくのかということが見通しを持って学習を進めることができるという視点から、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 やはり全ての教科書の中で一番幅があるなということを感じました。幅というのは、思い入れを強く感じる教科書もあるし、様々で。後で言う、例えば理科とか、その辺だと割と書いてある内容というのはそんなに違わなくて、ということがあるのですけれども、やはり歴史を扱う文章のトーンというのですかね、それは大分幅があるなということを感じました。

そんな中で、なかなか言葉でいうと、例えば客観性とか中立性という言葉は何を指してそういうのだというの、とても議論を呼ぶところで難しいと思うのですが、私は今、言った客観性とか中立性というところに関して、東京書籍を推したいと思います。

日本が原爆によって大変な被害を受けたということも当然書かれていますけれども、と同時に世界から見た日本の立ち位置というか、どのような気持ちを東南アジアの人たちは持っているのか。あるいは日本人の中でも、例えば集団自決ということをどう捉えるかと。その辺の記述が客観的に淡々と書かれているという感じがしました。そんな理由から東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同様でございます。今日、原爆の日ですし、あしたから確か国立の子どもたちは長崎に3日間でしたか、学習をする旅に出かけることになっていると思います。いろいろな考え方ももちろんあって、歴史観というのはそれぞれなのですが、私個人は、やはり例えば国民主権とか、基本的人権の尊重とか、平和主義とか、日本で大切だと言われていることをこれまでも大切に思ってきました。ですので、その観点からなのですが、いろいろな記述がありますけど、100%もちろん私の思いと同じ

ということではないかもしれませんが、その中でも一番歴史の流れがつかみやすくなっているのは、東京書籍さんなのではないかなということです。

あとは、使いやすさということであれば、例えばみんなでチャレンジという項目を使って、子どもたちに話合いができるような工夫がしてあるということもいいのではないかと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同様です。皆さんからの意見と同じなので、重ならない部分だけお伝えしますと、私もフラットに受け入れられる、偏らずに学べる、学び方が分かりやすいところで、東京書籍さんを推したいと思います。

地理と同じで、タイトルが分かりやすいので、授業の初めにすっと受け入れて、その時間の学びが深まるように思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「歴史」に関しては東京書籍がよろしいのかなと思います。各観点の評価は、総じて高いと受け止めさせていただきます。

また、教科書全体で、現代的な諸課題を意識しながら学習を進められるようにしている点がとてもよいと思いました。

個別に関して、付け加えさせていただきますと、脱炭素に関しては、自由社と学び舎以外の7社には記述がありました。また、しょうがい者理解に関しては、教育出版、帝国書院、日本文教出版、学び舎にありました。固定的性別役割分担意識については、全社記述がありました。さらに、これからの日本の課題として、多文化、人権尊重ですね。東京書籍、教育出版、日本文教出版が掲げているということが印象に残ったところでございます。

それでは、「社会（歴史）」ですね。こちらについては東京書籍を採択することでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「社会（歴史）」は、東京書籍を採択することといたします。

続いて、「社会（公民）」について、いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 「公民」は、教育出版さんを推したいと思います。「公民の技」とか、「公民の窓」とか、こういったところが、生徒にとって技能や表現力を養うとか、興味関心を喚起するという、そういった部分で役に立つと思いますし、学習を進めやすいのではないかと解釈しました。

また、章末のまとめが分かりやすい。そういった観点から、私は教育出版を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

では、篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同様です。内容面から申し上げますが、例えばコラムの中で死刑制度について扱っていたり、あるいは子どもの権利条約ですとか、オンブズマン制度などについても、きちんと紙面を割いたりしていました。

それから、政治のところの最後に、メディアリテラシーとクリティカルシンキングという、これも政治といいたいでしょうか、これからいろいろなことをまさに共に生きる中学生にとって、大事な観点ではないか

と思ひまして、教育出版を押ししたいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 コラムの中でも、公平だったり公正だったり、難しいと思われる言葉を分かりやすく生徒が理解できるような形で表現されているところがよかったです。

森や川、海などの再生と多面的だったり、多角的な視点で多く描かれている、表現されている教科書だと思ひました。私も教育出版を推します。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

では、大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も教育出版を押ししたいと思います。59 ページに死刑制度について考えようという記述があつて、そこで生徒たちがディスカッションをするときに、大変深まった死刑制度を考える議論が高まることだと思ひます。

今、非常に問題になっているのは、財政政策で財政赤字のことが述べられていまして、これは大変キープポイントであるかなと思ひます。それが分かりやすく書かれているので、教育出版を押ししたいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「社会（公民）」については、教育出版がよろしいかなと思ひます。こちら各観点の評価が総じて高いと受け止めさせていただきます。

また、「学習の終わり」というところに、こちらで「エピローグはプロローグ」という記述がございました。文化ですとか、ソサエティ 5.0、対話というキーワードがあり、終わりは次の始まりという表現が非常に印象に残っていることを付け加えさせていただきます。

なお、地理、歴史との連続性という視点で見れば、公民は東京書籍という選択もあるのかなと個人的には思つた部分も付け加えさせていただければと思ひます。

それでは、「社会（公民）」については、皆様、教育出版ということでしたので、教育出版を採択することとよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「社会（公民）」は、教育出版を採択することといたします。

続いて、「社会（地図）」について、いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 大変に見やすいという意味で、帝国書院を推したいのですけれども、見やすいというのは、もしかしたら自分自身がずっと慣れ親しんできた、長年その色調というのですかね、そういうトーンで来ているからということがあるのかもしれないのですが、それは、すみません、自分自身の歴史なので変えることができないので。いずれにしても非常に見やすいということで帝国書院を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私も帝国書院を推したいと思います。確かに見やすいということを私も感じますし、そういう声もたくさん聞いております。それから、資料がほかのところもたくさんあるのですけれども、資料集として使う場合にも非常に使いやすい。使い勝手というのですかね、そういったところ。情報量が資

料集としても使えるものになっていることになるとと思いますが、そのような理由から帝国書院を推したいと思えます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同じです。違う観点で申し上げますと、例えば歴史的な分野の内容も含まれる。それを関連づけるようなページがあったりですとか、あるいは学習のポイントとなる問いを設定したりしている。どういう問いを設定するかというのが、これからの教育の中、あるいは授業の中でとても大切だと思いますが、そういうことを地図というこれまで情報がすごく多かったものだとは思いますが、そこでも問いを設定していることなどについて評価をしたいと思えます。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同じです。見やすいカラーになっていると思えます。また、写真もたくさんあって、地図だけではなく、いろいろな情報を読み取ることができて、多面的な学習につながると思えます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も帝国書院でよろしいと思えます。写真あるいは資料が豊富に掲載されており、多面的、多角的に学習ができると思えます。また、先ほど篠原委員もおっしゃっていましたけれども、歴史分野の内容が含まれていることがございまして、関連づけて学習できることもとてもよろしいのかなと思えました。

トピック的なことで申し上げますと、持続可能な社会を考える統計という部分があるのですが、ここにジェンダーギャップ指数などというものが実は出ておりまして、こういうことを取り上げているのも非常に印象に残ったところでございまして。

それでは、「社会（地図）」については、帝国書院を採択することによろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「社会（地図）」は、帝国書院を採択することといたします。

続いて、「数学」について、いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私は、数学については、学校図書を推します。現行の東京書籍さんは、報告書にもありますように、キャラクターの吹き出しが非常に分かりやすく、生徒たちの主体的・対話的で深い学びにつながっているすばらしい点もあるのですが、学校図書さんの場合は、「見方・考え方」を設定して問題を考えていくときに、数学的な考え方を例示してあって、示していることはとても数学の教科書としてはいいのかなと思えました。

それから「ふりかえり」がありまして、学びの連続性という視点で、これもすばらしいと思えました。また、各問題は色塗りが分かりやすく、深まる学習につながっていくのではないかと。そういう視点から学校図書を推したいと思えます。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

では、篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私は東京書籍を推したいと思えます。全体を通して、数学は分からない子にもきちんとガイダンスができるような教科書であってほしいと思うのですが、そこについて苦手な子でもいろいろな

学びを続けていく工夫がされていると思いました。

例えば途中式もすごく丁寧に扱っていますし、キャラクターがあればいいという問題ではないのですけれども、そういうものを使って、子どもたちにも分かりやすく伝えているのではないかなと思います。

数学的思考ということがとても大事だと思いますが、そういうことも具体例などを使って適切に示しているのではないかなと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も東京書籍です。1年生は余白が割とあるように思います。そのことによって、中学1年生になって数学を捉えたときに、少しでも余裕を持ちながら進められたらいいなと思ったのと、最後のページに厚紙で立体を作れるものがあり、子どもたちが主体的に立体を工作する時間で数学を楽しむことができるのではないかなと思いました。

2年生、3年生になるにつれて少しずつ情報量は増えていますが、分かりやすくまとまっていると思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

では大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も東京書籍を推したいと思います。最初に図形のほうで各出版社の違いはあるなという感じがしたのですけれども、東京書籍は、例えば敷き詰めた模様をデザインしようと。最初は何をやるのだからよく分からないような、ちょっとクイズのような、パズルのような、そういう導入があったと思います。わくわく感というか、それを持ちながらどうなっていくのだろうという、そういったアプローチですね。一方で、最初から定義があって、例えば大日本図書などだと、何々を「弧」といいますとか、何々を「弦」といいますとか、最初に何々はこうなのだという定義があって、それから作図があって、それから図形の移動があるという、そういう流れで、それも捨てがたいなと思うのですが、最初にパズルのような、クイズのような、そういったところから導入して、最後に実はそれは「弧」というものだとか、これは「弦」というものだということに入ってくる、アプローチが若干違うのですが、わくわく感ということで東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「数学」は東京書籍ということで申し上げたいと思います。「数学」はやはりなかなかとっつきにくい教科であるという印象を持っています。そういう中で、各社とも日常ですとか、あるいは社会事情と関連づけているところは非常にいいのかなと思っているところがございます。

東京書籍は、生徒の目線で気づきや考えを引き出すきっかけを示しているところが、学習指導要領の主体的・対話的で深い学びにつながっているところがよろしいのではないかなと思ったところがございます。

各社個別で、ちょっと興味を引いた部分がそれぞれございますので、コメントを加えたいのですけれども、東京書籍では二酸化炭素の排出量を削減するためにですとか、大日本図書、学校図書、教育出版は、フードマイレージというもの。啓林館は、どちらのくじを引こうかなという、期待値のことを取り上げていました。また、数研出版は、LED電気はお得ということ。日本文教出版は、ピザの大きさをどっちがよりお得かみたいなことを取り上げて、日常生活とか我々の今、周辺環境に関連することを取り上げている素材を提供していただいているのは非常に興味深いかと思ったので、付け加えさせていただければと

思います。

では、「数学」なのですけれども、お1人が学校図書、残りの委員が東京書籍というご意見でした。このことからいきますと、数学は東京書籍を採択することでよろしいのかなと思いますけれども、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 それでは、「数学」は、東京書籍を採択することにさせていただきます。ありがとうございました。

では、続きまして、「理科」ですね。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私、「理科」は教育出版を推します。「理科」に限らずなのですけれども、年間指導計画から考えますと、教科書が変わると、本当に1からつくり直すことに大変さもあつたりする。それは仕方がないことだと思うのです。また「理科」の場合は器具の準備の問題とかあつて、現状のものが便利だという考え方もあるのですが、私は小・中の連携、それから高校へのつながりとか、この視点から教育出版を推したいと思うのですね。

単元の後ろのほうに、「広がる科学の世界」ということで、高校につながっている、そういう発展的な内容を扱っているところが高校へのつながりという点。それから「これまでの学習のおさらい」というところがあるのですが、そこをリンクしていくと、小学校のときの教科書が出てくるのですね、ページが。国立市は小学校で「理科」は教育出版を使っていますので、ここを開くと、自分たちで使った教科書が出てくるのですね。ですから小・中との連携といいますか、つながりの深さというか、そういう視点で教育出版社を推したいと思います。

あと、報告書の中に、課題、考えよう、結論の流れが多いという表現があつたのですけれども、「多い」。これは肯定的な意見なのかな、否定的な意見なのか、ちょっと迷ったのですが、私は「多く」でいいと思っております。そんな理由から教育出版社を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございました。いかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私は啓林館さんを推薦したいと思います。審議結果のコメントがそれぞれ肯定的なものが多かったと思いますし、各分野のバランスなども適切なのだと感じました。

例えば実験のやり方について、分かりやすく記述されているですとか、あるいはふり返りシートが単元ごとに用意されているとか、「お仕事ラボ」「深めるラボ」など、身の回りの事実と科学性というものを関連させている。その配慮などについて評価したいと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございました。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も啓林館を推したいと思います。理由は、とても図や写真がやや他の出版社よりも大きかったと記憶していますが、はっきりしていて、見やすいですね。きれいな図であつたり、きれいな写真であつたりする、そういうところから生徒は興味を抱くのかなという印象を持ちました。

文章は大変すっきりしていて、そして教員がそれにいろいろ肉づけして話すのでしようけれども、文章自体はすっきりしていると思いました。

あと、アブラナの図も大変分かりやすく、その構造が分かりやすく描かれていました。ということで、

啓林館です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同様です。動物の分類をしているページがあって、そのところでは分類の観点を分かりやすく視覚的にまとめられているなど思いました。子どもたちも身近な題材で学ぶことができるのではないかなと思いました。

沸点や融点を勉強するところでは、豚のばら肉の角煮の保存の写真があって、そういったところも身近な素材を使って理解できるところがよかったと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「理科」は、啓林館がよろしいのかなと思います。先ほど篠原委員がおっしゃった部分とダブるのですけれども、「お仕事ラボ」「深めるラボ」で身の回りの科学的現象と関係づけられていることですか、「考えてみよう」「Action－活用してみよう」は、生徒が主体的に取り組みやすい内容がよいと思っております。

個別についてなのですが、先ほどの「数学」のところでもちょっと補足した部分ですけれども、各社とも日常生活や社会との関連、また脱炭素ですか、持続可能な社会づくりということに関連づけているところはとても印象に残ったところがございます。

それでは、「理科」なのですが、お1人が教育出版、残りが啓林館ということでございました。そうすると啓林館を採択することになるのかなと思うのですが、啓林館ということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 それでは、「理科」は、啓林館を採択することといたします。ありがとうございます。

では、「音楽（一般）」のほうに入りたいと思います。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 「音楽」は教育芸術社を推したいと思います。2つの出版社を比べてみて、非常に似ている曲が、同じような曲が取り上げられているので、なかなか甲乙つけ難いところもあるのですけれども、例えば教材として出ているのはバッハの小フーガ、それからベートーベンの運命を取り上げて説明しているところでも、そのモチーフの展開の説明などもやや教育芸術社が分かりやすいかなと思いました。

ただ前の教育芸術社に比べると、60年代のフォークソングなんかは以前は載っていたと思うのですが、それがカットされて違う曲が入っているのがやや残念で、まだまだ世界中にというか、はやったすばらしいものなので、その辺を中心にしていったらいいのかなという気が私個人はするのですが、今の若手作曲家というのですかね、あまりよく知らない曲が結構入っているなというところはあるのですが、名曲すごさというのはあるので、その辺を取り入れられたらいいのかなと思いますけど、結論から言って、教育芸術社を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私は教育芸術社を推したいと思います。「音楽」、中学生くらいの音楽のそこまでの育ちの環境といいますと、音楽は経験が1人1人の違いというのがあるので、できるだけ学習意欲を高めるような、そういった内容を工夫していることでは教育出版社を推したいと思ったのですが、大野委員が言ったようにどちらも本当すばらしい教科書で、私なんかは本当両方をうまく使えないかなと。この曲はどちらを使ってとか、それができればいいのでしょうかけれども、採択となったならば教育芸術社かなと。そ

これは今までの曲のことも出ていましたけど、逆に私は新しい曲が入ってきていいなということを考えました。

ただ気になったことが1つ。展示会アンケートの中に、ページがないからちょっと分からないのですが、39歳の方が、「しかしながら教育芸術社の音楽の教科書、2、3年の上の60ページ、音楽には教育上問題があるかと思えます」ということで、「入れ墨がいただけません」。そういう表現があるんですね。だからこういったことをまた配慮しながら、使う場合にはこういうことも配慮していかないといけないかなと、そんなことを感じました。

結論的には、教育芸術社ということになります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も結論は教育芸術社です。一番のポイントは、こちらの資料にもありましたけれども、生徒の発達段階に応じて取り組みやすい曲からレベルの高い曲まで、構成が系統的になっていることだと思います。中学生はいろいろと音楽をやるにも心身が変わっていく、変化が大きいときでもありますので、そういうことに配慮した構成になっているのではないかなと感じました。

あと、資料としてもすごくいろいろ盛りだくさんで、今、操木委員がご紹介されたアンケートの中では、情報量が多過ぎませんかというコメントも確かあったと思うのですが、多分取捨選択して、いろいろな生徒が音楽に楽しむ材料を提供してくださっているのかなと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同じです。純粹に音楽を楽しみましょうという大きなテーマとして感じられるなど思いました。二次元コードでは、パート別に自習できるようになっていることで、私も開いて見ましたが、個別に取り組み、好きなときに、自分が練習したいと思ったときに取り組めるようになっていることがよいと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「音楽一般」については、教育芸術社を押ししたいと思います。教科書の巻頭に現在活躍している人のメッセージを載せていることが、興味関心が高まるということがあります。また、先ほどもございましたけど、発達段階に応じた曲が網羅されているということがよろしいのではないかなと思ったところがございます。

ちょっと瑣末といたしますか、個別になるのですが、両方の教科書に指揮をするときのイメージが出てきているのですが、このイメージのイラストは、私は教育出版のほうが何となく分かりやすいのかなと思いましたので、付け加えさせていただければと思います。

それでは、「音楽（一般）」については、皆様、教育芸術社ということでございましたので、教育芸術社を採択することとしたいと思えます。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。では、続いて「音楽（器楽合奏）」に移りたいと思えます。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私は、「器楽」は教育出版社を推したいと思えます。「一般」とこの「器楽合奏」をそろえる意味はそんなないと思えます。個別に見てみたのですが、先ほど申し上げましたように音楽

はそれまでの学びがすごく深い生徒と、それからあまりそういう経験がない生徒は、分かりやすく、そしてこの中学校の器楽によって、音楽に目覚めてほしかったりとか、好きになってほしいという、そういう気持ちでその教科書を見てみますと、やはりコードがすごく分かりやすくということで興味を持つ、そういった構成になっているかなと。要するに、あまり音楽が得意でなかった生徒が音楽を好きになって得意になってくれるという期待を込めると、やはり教育出版社ということになります。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 これもすごく、例えばコードネームが載っていて、ギターとキーボードでどう押さえるかという写真も載っているのですが、ほぼほぼ一緒と言えば一緒なのですが、やや初心者にしてみると、教育芸術社のほうが図になっているので、こちらのほうが見やすいのかなという感じはするのです。写真だと、こちらに押さえる場所が書いてある図はあるのですが、ちょっと見づらいのかもしれないかなという懸念もありました。

あと、教育芸術社のほうで使っているのは、例えば「アイ・ガット・リズム」とか、ガーシュウィンですね。その辺も取り上げていて、トータルな選曲ですね。それが教育芸術社のほうがややいいのかなという気がしまして、同じく教育芸術社ということで推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も教育芸術社を推薦いたします。やはり生徒の実態に応じて選曲がしやすいように、幅広いものが選ばれているのではないかなと思いました。

それから、楽器の構造ですとか種類についても、もちろん教育出版さんのほうもきちんとご紹介があるので、分かりやすい提示の仕方をされているのではないかなと感じました。

あとは、いろいろな楽器の内容がバランスよく構成されている。和楽器についても教育出版さんもちろん入っておりますけれども、そのバラエティも含めて、バランスが教育芸術社のほうがよかったのではないかなと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も教育芸術社です。写真がとても多いので、身近に感じられるのではないかなと思いました。興味を持ちやすく和楽器などはやってみたい、聞いてみたい、取り組んでみたいと思って、興味を持ちやすいのではないかなと思いますので、この教科書を通して楽器を深めてもらいたいなと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「器楽合奏」は教育芸術社がよろしいかなと思いました。こちらの「音楽一般」と合わせることが適切なかなと思ったところがございます。

また、学校に打楽器がどこまでそろっているかというところは分からないところであるのですが、両方にそのことが出てはいるのですが、教育芸術社のほうは丁寧に解説がされているのではないかなと感じたところがございます。

それでは、「音楽（器楽合奏）」ということなのですが、お1人が教育出版、残り4名が教育芸術社とい

う形になりました。

となりますと、「器楽合奏」については、教育芸術社を採択することとしたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「音楽（器楽合奏）」は、教育芸術社を採択することといたします。

ここでおおむね1時間を経過しておりますので、10分間休憩をとりたいと思います。再開をこの部屋の時計で2時45分といたします。よろしく願いいたします。

(休憩)

○【雨宮教育長】 それでは、休憩を閉じて議事を再開したいと思います。

続きまして、「美術」に入りたいと思います。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 日本文教出版を推したいと思います。報告にもありますけれども、同世代の生徒作品の写真が多いことですね。やはり生徒のイメージ化につながるという点で、この点は1ついいなと思いました。それから、何と言っても3分冊になっているということですかね。教科書、2つになったのを、まとまっていればそれだけでいろいろなところを見る、そういうこともできるのですが、やはり内容できちんと3つに分かれている、その分け方もいいなと思ひまして、報告にありますけれども、要するに生徒の発達段階に沿っているという、そういったところがよいかと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 「美術」も出版社によって大分内容が違うなという感想を持ちました。つまり同じような絵がいろいろ出てくるのかと思ったら、そうではなくて、一番アカデミックなというのでしょうか、従来あるような作品が多く載って、正統派というのですかね、その感想を受けたのは開隆堂でした。最初のほうに絵の光、それから奥行、それから空気感という最も絵画における重要な点というのを述べているところから、大変にアカデミックな感じがしましたし、それから掲載されている絵も非常に多かったわけです。

ただ、一方でもしかししたら、今、これだけの印刷技術も発達している中で、いわゆる名画と言われているものというのは、いろいろ目にするチャンスはあるのかなと思うのですけれども、日本文教出版のほうは、生徒の作品ということを中心に載せていて、そういったアプローチというのはなかなか教科書以外では見ることができなくて、同年代の生徒たちはどんな絵を描くのか、あるいはどんなアプローチをしてくるか。そんなところで、先ほどの言った開隆堂とはやや内容が違うのですが、そういった意味から、生徒の目線で見られる日本文教出版を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も大野委員と同じです。やはり生徒が身近な作品を知ること、それが自分もやってみようという主体的な取組に結びつくのではないかとお考えになったかどうかは分かりませんが、そういう思いを私は酌み取りました。

ですので、中にも例えば表現のヒントというものが入っていたり、皆さんも鑑賞するだけではなくて、

自分でやってみようというメッセージが全体に伝わってくると感じました。

それから、すごくあつと思ったのは、表紙が表と裏、開くと1つの作品になっている、そのままになっていて、これも少ないページ数に、いろいろな工夫をされることの1つの表れかなと感じました。それによって、また3分冊も分かりやすく、意味ある3分冊になっていると感じています。

あと、もう1つ付け加えると、著名人からのメッセージが巻頭に出ているところがあって、1年生だとユーミン、あと2、3の下だと所ジョージさんとか、吉藤オリィさんというロボットの製作者ですとか、そういう何かを作ろうという先輩たちの言葉というのも、きっと生徒たちにはよいものがあるのではないかなと期待しました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も同じです。教科書のサイズも大きいことで、子どもたちはわくわくするのではないかなと思いました。学年ごとにステップアップしていく文化や芸術について、分かりやすく表現されていることも魅力的だなと思いました。絵や彫刻、デザインについて、子どもたちがもっともっと深められていく題材がたくさん表されているなと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も日本文教出版がよろしいと思います。多くの委員の方がおっしゃっていたように、同世代の生徒作品が多く掲載されるということは、活動のイメージにつながっていくということはとてもいい題材だなと思いました。

個別についてです。各社とも、SDG sの視点が入ってきているのはとてもよろしいかなと思います。あと、もう1点、付け加えさせていただくと、開隆堂の表紙ですね。これは実は触ってみると、ちょっと立体感があるような工夫がされているのですね。これは個人的には非常に面白いなと思いましたので、付け加えさせていただきます。何か美術の教科書らしいなと思ったところがございます。

それでは、「美術」についてです。日本文教出版を採択することによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「美術」は、日本文教出版を採択することといたします。

続いて、「保健体育」です。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 「保健体育」は、株式会社G a k k e nを推したいと思います。大日本図書さんも構成とか分量とか、他教科とのつながりを示されていて、指導計画とかを立てやすいことがあったりとか、各学年の保健の配当時間に合わせて構成されているということで、指導上、教師にとって非常に使いやすいのかなという思いも持ちました。

また、サイズも小さいということで、大きいのがいいのか、小さいのがいいのかということに関しては、教科によって違うと思いますけど、サイズが小さくて持ち歩きができていいかななんて逆に思いました。ただ、やはりG a k k e nのほうは、生徒たちが学んだことを日常生活に取り入れる。結局日常生活をより豊かにするために学ぶわけですから、実生活へつながるような、そういった構成になっていること。それからユニバーサルカラーのことも出ていますが、先ほどのほうは教師にとってということだったのですが、こちらは生徒にとって学びやすいし、またそれを日常生活に生かすことができるのではないかとい

うことで、G a k k e nを推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私もG a k k e nを推したいと思いました。審議会の報告の中にもありましたけれども、健康と安全ということを大事に扱っていることと最新的话题を上手に取り込んでいること。それから、今、お話にもありましたけど、実生活にどうやって生かせるかということについても工夫がされていると感じました。

また、興味が持てるように、写真なども含めて視覚的な要素が充実していると感じましたので、G a k k e nを推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私もG a k k e nを推したいと思います。データで見る運動、食事、栄養等も分かりやすい形で表現されていましたし、バランスがよいと思います。1歩踏み込んで、副教本には載っているようですが、L e a v e N o T r a c eという環境倫理を取り入れた自然をそのままにだったり、健康的な生き方を目指す取組があるのですけれども、海外では多くの国で体育の教科書に載っているということなので、日本でも検討できたらいいのかなと思っています。

以上です。

○【佐藤委員】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私もG a k k e nを推したいと思います。ほかの出版社でも取り上げているのですけれども、それがうまく書かれているのは、例えば嘉納治五郎のことです。相手へのリスペクトだとか、あるいは養った力を他のために伝えるとか、そういう精神的なことも書いてあって、ただ、その記録を出して勝てばいいのだということだけではなくて、その歴史的なところも触れて、いかにスポーツに親しむかということが整理されて書かれていたと思います。

あと、受動喫煙もしっかり書かれていて、これは他社でも書かれているのですけれども、この辺の書き方も要点が読みやすく書かれているなというところで、G a k k e nを推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も「保健体育」は、G a k k e nを採択したいと思います。本市小学校もG a k k e nを採択しているところがございます。小学校の教科書同様に、しょうがい者理解ですとか、生活と家族についてという部分について、文章、イラスト、写真が非常に多く引用されているところがとてもよいと思います。

個別について申し上げますと、東京書籍において、巻末にスキルブックというのが特出しされているのですけれども、この内容はとてもまとまっており、学習といえますか、こういう技術を身につけておくといよねという素材としては、とても印象に残ったことを付け加えさせていただければと思います。

それでは、「保健体育」については、G a k k e nを採択することによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「保健体育」はG a k k e nを採択することいたします。

続きまして、「技術・家庭」の「技術分野」について、いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 私は、「技術分野」は東京書籍を押ししたいと思います。この報告書にありますけれども、「技術分野」のガイダンスというところですね。3年間の学習の見通しを持って生徒たちが学びを進めることができるという、やはりどんなことをこれから学んでいくのだという見通しを持つことはすごく大事なことだと思いますので、ここを評価したいと思います。

また、プログラミングの基本題材とそれから参考題材ということで、これは主体的に選ぶことができるし、また、授業を進める教師にとっても、その調整ができるということで、どちらにとってもいいのかなという点で、東京書籍を推薦したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 この技術の教科書を見ると、ポイントとなるのが、情報の分野なのかなという気持ちで読みました。いずれの教科書会社もかなり情報についてページを割いて、細かく書いていたと思います。ただ、そのアプローチの仕方は各社によって大分違うなという感想も持った次第です。

とても見やすく、統一感があり、分かりやすいというのが東京書籍であったかと思ひまして、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同じくです。一番、今、出ていないお話でポイントにしたかったのは、問題解決のプロセスという項目立てをしているところです。問題の発見ですとか、課題の設定、そうやって問いを自分たちで自分のものにしていくことができるつくりになっているのではないかなと思ひました。

もう1つは、他教科ですとか小学校との関連性、あるいは道徳、その内容の関連も示しているところを評価したいと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も東京書籍さんを推したいと思います。文字が読みやすくて分かりやすいなと思ひました。手順についても写真で示されていて、とても分かりやすかったです。そのことによって、何をどんな流れでするとよいのかということが分かりやすく子どもたちにとって、生徒にとって身につけやすいと思ひます。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。「技術・家庭」の「技術」については、私も東京書籍を採択したいと思います。導入部分に身の回りの製品ですとか、社会における技術を取り上げているという点。今、篠原委員からもございましたが、他教科ですとか、小学校での学習内容、道徳教育との内容の関連性を示していることがとてもよいと思ひました。

個別についてです。各社ともしょうがい者理解、持続可能な社会づくりに触れているところはとてもいいと思ひます。特に、教育図書が持続可能な社会づくりに関してとても多く触れている点は印象に残りました。それを挙げておきたいと思ひます。

それでは、「技術・家庭」の「技術分野」については、東京書籍を採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「技術・家庭」の「技術分野」は東京書籍を採択

いたします。

続いて、「技術・家庭」の「家庭分野」についてです。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 どの出版社も豚のしょうが焼きなどが載っていたのですけれども、これはなかなか甲乙つけ難いというか、同じようなレシピで、同じような写真だったかなという感想を持ちます。

ただ、東京書籍を推したいのですけれども、それは子どもの権利を守るとか、あるいはユニセフの項目ですね。その辺がかなりきちんと書かれていたと感じまして、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 開隆堂の「やってみよう、考えてみよう」。こういった学習課題がいいのですが、ちょっと内容が多い、教科書の分量や情報が多いという報告が上がっていますが、内容はいいのですけれども、ちょっと量的な問題、やはりどうなのだろうなという疑問はありました。

反面、東京書籍はやはり多様な家族の在り方というところに視点を当てていることとか、またキャリア教育とか、そういったところのキーワードは出てきていますけど、その辺も魅力を感じました。

また、プロに聞くという、その辺りは非常に興味を持って生徒たちは学んでくれるのではないかな。以上の視点から東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も実は迷いまして、開隆堂さんもいいかなと思いました。例えばヤングケアラーですとか、里親の話ですとか、多様な家族関係の話について、かなりある意味突っ込んだ記述があるのではないかなと感じました。

子どもたちにとって、この家庭という分野はとても身近であり、かつ、とても大切なメッセージを伝えなくてはいけない教科ではないかなと思ひまして、その辺りのことも含めて、開隆堂さんのことを評価したいのですが、全体的に言って、バランスがとれているという意味で、東京書籍を最終的には推薦したいと思います。

操木委員がおっしゃったポイントのほかに、例えば「せいかつメモ」ですとか、そういうことがきちんと豆知識として興味深く読めるように提示されているですとか、実験写真が多く取り入れられていて、科学的な根拠を持って理解しやすいなどという技術についても評価したいと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も東京書籍を推したいと思います。私も写真が大きいことで分かりやすいなと思いました。あと、日常につながる課題がそのまま取り入れられることで、見やすく、分かりやすい表現の中で課題を解決していくことができるなと思いました。

また、印刷用のインクを食物油で使用しているということで、環境に配慮されていることだったり、過敏な生徒に配慮するといった点についても、自然な形で学ぶことができるなと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私は、「家庭」に関しては開隆堂と思いました。先ほど篠原委員がおっしゃった東京書籍と実は悩んだところがあります。私の中で非常にポイントが高かったのは、

先ほどもございましたけれども、家庭生活分野で本当に今、話題になっているヤングケアラーですとか、里親の下で生活する人、赤ちゃんポストで預けられて育った人のことなどが出ているわけですけど、そういう多様な家族関係の経験談を取り上げている点と、加えて小学校との関連マークが設けられていて、既習事項をふり返りながら中学校の学習に生かせるようになってきていることから、こちらを選択したということでございます。

個別についてですけれども、各社とも持続可能な社会づくり、しょうがい者理解、生活と家族、固定的性別役割分担意識について多く触れられており、今の時代をきっちり捉えていただいて、素材として扱っていただいている点はとてもいいなと思ったので、コメントとして付け加えさせていただきたいと思います。

では、「技術・家庭」の「家庭分野」です。東京書籍を推される委員の方が多かったと思います。「技術・家庭」の「家庭分野」は東京書籍を採択するということによろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「技術・家庭」の「家庭分野」は東京書籍を採択することといたします。

続いて、「外国語」についてです。いかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 光村図書さんを推薦したいと思います。審議会の中でも報告がありましたけれども、英語を学ぶことの必然性という話がありましたが、そういう話も含めて、トータルの教科書としてのメッセージがはっきりしているのは光村図書さんかなと思いました。

それから小学校との連続性、接続性の部分への配慮と、もう1つが、自分のことを話すですとか、あるいは「You're the Writer」といって、自分で作文することを促したり、あるいは“Let's talk”という言語活動を自らやっという、そういう様々な工夫がこの教科書にはあるのではないかなと思いました。それで、光村図書さんを推薦したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 私も光村図書を推薦したいと思います。ほかの出版社もちょっと比較なのですが、三省堂もいいなと思ったのですが、少し程度が高いのかなという感じがしました。量が多いのかなという気もしました。

それに比べて、開隆堂のほうは、中1辺りだとほとんど会話で、基礎的な内容だったかと思いますが、何年生でしたか、開隆堂で面白かったのは、面白い学校行事でパジャマデイというのがあって、これはパジャマで過ごすということで、小児がんの子の気持ちに寄り添ってという、そういう内容はとてもためになる内容だったと思います。

それで、光村に話は戻しますけれども、1年生の教科書だと、会話が中心で興味深く英語の世界に入っていける感じがしたのですが、3年生くらいになると読み物が出ていて、その中で1950年頃の人種差別に立ち向かった15歳の少女の話が出ていたのですね。バスの中での人種差別に敢然と立ち向かっていったという、その内容がすごくいいなと思いました。

ついこの間のように思うのですけれども、厳然としたそういう時代背景、黒人が差別されるという現状があり、そして、それが今ではほかの形でもネット上でも、あるいは音楽の表現でも、それが差別だということを挙げられるということがごく最近もありますし、差別という問題はずっと時代が変わっても形を

変えて存在するものだなということで、大変興味深い内容だと思います。したがって、光村図書を押したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 各社楽しいというか、難しいところがあったり、両方あるのですけれども。英語は子どもたち1年生習いで始めるのですが、その興味をどう取り入れるかというのは、小学校でどこまでやってということを生かした視点で取り入れている会社もありました。それから、例えば三省堂さんの内容は確かに多いのですが、やはり英語で学ぶのだという目標が明確にされていて、ある程度の量も必要なのかなという、その意図も分かりますし、また教育出版さんの発表する活動を取り入れているのでスピーチの練習になると。英語は何のために学んでいるのか、いろいろ目的はあるのでしょうか、やはりスピーチというのはかなり重きを置くものだと思いますので、そういったところを大事にしている点もいいなと思いました。

最終的には、光村を推したいと思います。それは先ほども申し上げましたけれども、小学校との接続部分ですね。この辺りの内容が充実していることと、楽しく中学校の英語に入って行かれる、そんな雰囲気を感じました。

それから、ここはでもやはり、先ほど出ましたけど、“L e t ’ s t a l k” のところですね。やはり会話にポイントが、重きを置かれていること。それから、主人公が3年間を通して成長していくストーリーを取り上げていることは、報告にあるように、生徒たちの興味を引きつるのではないかと思います。

ということで、光村を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も光村図書を推したいと思います。重なりますが、イラストも多く、文字が大きくて分かりやすいなと思いました。生徒の親しみやすく楽しみながら学びたいということと、ここの教科書が一致するのではないかなと思いました。

口語的な表現が多いということで、こんなふうに英語で話したらいいのだという、少くく間違って大丈夫というような、自信につながっていく教科書になっているのではないかなと思いました。どんどん話したり、自然に話せるようになる工夫がたくさん盛り込まれているなと思いました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も光村図書を採択したいと思います。盲導犬ですとか環境配慮など時代の要請に即したトピックが多く、英語を通じてグローバルな視野を広げる学習につながるという点。また、口語的表現が多く、生きた英語を身につけられるように構成されているという点がとてもよいと感じたところでございます。

それでは、「外国語」については、光村図書を採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。それでは、「外国語」は光村図書を採択することといたします。

では、最後になりますかね。「特別の教科 道徳」についてです。いかがでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 各社本当に工夫をいただいていますね。例えば教育出版社ですね。昨今の社会で活

躍している人物を取り上げて、生徒たちが興味を持ちやすいのではないかと、そこも評価したいと思います。また、視認性とか可読性ということで、見やすく読みやすいといった生徒に優しい、そういった表現になっていること。それから学びリンクですね。このアクセスも非常に興味深く感じました。また、光村は小学校で学んだ題材を取り上げて、今の自分ならどう感じるかということを考えさせる。これ非常にふり返るということは、これから先の自分も見つめることにつながっていくので、こういった視点もすばらしいなということで、それぞれに工夫がみられるなど思ったのですが、最終的には東京書籍を押ししたいと思います。

体験的な学習を進めることができる。やはり学んだことを実生活にいかにか落とし込んでいくかという、そういったスタートになる、そういったことを期待しています。そういうことも含めてですね。

それから、今、実際のこの教科用図書を使っているわけですが、現在の現場のほうで、生徒が非常に中のものに興味を持っていて、授業以外でもよく読んでいるという話も聞いておりますので、生徒にとってはいいのかなと思ひまして、東京書籍を押ししたいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

篠原委員、お願いいたします。

○【篠原委員】 私も同意見です。重なるところがありますけれども、内容についてすごく身近で、興味を引く教材が工夫されているという記述がありました。そのとおりに考えています。

道徳は、多分教科書を作るのは難しいのではないかなと思ひますが、生徒たちが考えて、そして話し合う、議論をする、その材料を提供してほしいという審議委員長のコメントがありましたけれども、そういうことができているのが、東京書籍さんかなと感じました。

あともう1つは、「NHK for school」の番組ストーリーを誌面に落とし込んでいくというところで、動画と紙教材といいたいまいしょうか、「for school」の中では、道徳はかなり活用されている学校が多いので、その意味でも、この部分もポイントになるかなと感じました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

大野委員、お願いいたします。

○【大野委員】 結論は最後に言うことにして、各出版社の特徴を私なりに感じたことを言います。

日本文教出版ですけれども、かなりシリアスな内容に迫っているのかなという気がしました。あるいは中村哲さんの話があったりして、命を見つめることで、そこにダイレクトに迫っている感じがします。国立にはゆかりがあるとすると、石井筆子とか、あるいは滝乃川学園とか、その辺も取り上げられたので、いいなと思ひました。

また、教育出版の藤井聡太の学び方を師匠である杉本昌隆氏が述べているところも大変興味深いところではありました。

光村図書においては、これは東京書籍も載っていますけれども、菊池寛の文章が載っていて、これは結構前から菊池寛の文章を取り上げて、ちょっと国語みたいなのですけどね。そういうのが載っていたのが印象的でした。

結論的に言うと、東京書籍を推したいわけですが、その中で幾つかの理由というのは、個性を大切にすることということで、みんな違ってみんないいと。そして、それは「私と小鳥と鈴と」という金子みすゞの文章を載せて、その個性を大切にすること、その文章が大変よかったこと、あと、今、タイムリーではありますけれども、柔道の阿部詩ですね。その人の文章もあって、何と中学に入った頃は練習が嫌だっ

たと。いろいろ考えてそのメッセージとしては、朝ごはんがとても大切ですよというメッセージと、それからすぐに結果は出ないものだというメッセージですね。その辺も述べられているところで、それぞれの出版社でいろいろな工夫はあって、それぞれいい文章があるのですが、最終的な結論という、東京書籍を推したいと思います。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いいたします。

○【佐藤委員】 私も東京書籍を推したいと思います。生徒が感じたことを自由に書き込むことができることが、まずあるということが自分の意見を持っていいのだよということを伝えられる、安心する教科書だなと思います。自分の考えを友だちと共有したり、話し合ったりすることができることも、学級の課題を解決していたり、日常につながっていくのではないかなと思いました。

いろいろな考えを知ったり、1人1人違っていいということだったり、多様な人材があること、共存していること、そんな材料を引き出してくれる教科書だなと思います。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。私も東京書籍を採択したいと思います。いじめですとか、あるいは命ということに関しては、3つの教材を1つのユニットとして構成していることで、まとめて学習させることで、生徒の印象に残る指導ができる点はよいと思ったところでございます。

また、お互いを理解するところなのですが、ちょっと個別になるのですが、「運命のタックル」という素材が載っています。これはラグビーにおける実話なのですが、タックルを受けた者がしょうがいを負ってしまい、タックルをした者がその後病気になってしまうと。お互いそれぞれの病気、しょうがいと闘うという、2人の交流を取り上げている素材なのですが、実はこれある意味蛇足になってしまうのですが、私はこの本を個人的に読んでいたことがあって、ノンフィクションとしてすごくいい素材だなと思ったのをちょっと述べさせていただければと思います。

個別についてです。各社とも本当にいろいろなものを取り上げる中で、その性差と家族ですとか、しょうがい者理解、固定的性別役割分担意識等をあまねく取り上げていただいている。これも本当に時代を反映しているなと思いました。また、日本文教出版のWell Being Cardというのがついている教科書になるのですが、これはなかなか活用できるアイテムではないかなと感じました。

さらに、もう1件だけ付け加えさせていただくと、教育出版において自分らしく堂々と生きようというところに、題材としてカラフルという性自認に関する生徒作文を掲載しているのですが、やはり多様性がある、それに苦しまなくて済むという気持ちがそこに表されているのですが、これは国立にとってはすごくいい題材だなと思ったところでございます。

それでは、「特別の教科 道徳」です。東京書籍を採択することでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 それでは、「特別の教科 道徳」は、東京書籍を採択することといたします。

以上で、中学校全教科の教科用図書の採択が終わりました。それでは、確認のために、事務局から本日採択しました教科書会社を読み上げていただいて、確認をしていきたいと思います。

荒西教育指導支援課長、お願いいたします。

○【荒西教育指導支援課長】 ご審議、ありがとうございます。採択いただいた教科書について確認をさせていただきます。

「国語」光村図書。「国語書写」光村図書。「社会（地理的分野）」東京書籍。「社会（歴史的分野）」東京

書籍。「社会（公民的分野）」教育出版。「社会（地図）」帝国書院。「数学」東京書籍。「理科」啓林館。「音楽（一般）」教育芸術社。「音楽（器楽合奏）」教育芸術社。「美術」日本文教出版。「保健体育」株式会社Gakken。「技術・家庭（技術分野）」東京書籍。「技術・家庭（家庭分野）」東京書籍。「外国語（英語）」光村図書。「特別の教科 道徳」東京書籍。

以上になります。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま荒西教育指導支援課長から全教科について、採択図書を読み上げていただきましたが、間違いございませんでしたでしょうか。

ありがとうございます。それでは、ただいま荒西教育指導支援課長から読み上げられました教科用図書を令和7年度使用国立市立中学校教科用図書として採択いたします。

以上のとおり、国立市中学校における令和7年度から使用する教科用図書が採択されました。教科用図書は学びの基本となるものではありませんが、私は1つのツールであると考えているところです。これを基本として、いかに生徒の興味関心、学びを引き出すか。その力量が教員には大切ではないかなと考えているところでございます。これは私、常々申し上げていることでございますけれども、ぜひとも教員の皆さんには、様々な研修、調査研究を通じて教える人から学びを引き出す人になっていただければと期待をするところでございます。

最後に、本採択に当たりまして調査研究に携わっていただいた教科用図書審議会、並びに調査研究会の先生方のお力添えに厚く感謝申し上げますとともに、教科用図書採択に当たってご意見、ご要望等を頂きました市民、保護者の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございます。

これで中学校教科用図書の全教科書の採択が終わりました。どうもありがとうございました。



○議題（3） 議案第45号 令和7年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について

○【雨宮教育長】 続きまして、議案第45号「令和7年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」を議題といたします。最初に事務局から説明をお願いいたします。

小島指導担当課長、お願いいたします。

○【小島指導担当課長】 それでは、議案第45号「令和7年度使用国立市特別支援学級教科用図書採択について」説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第1項に基づき、令和7年度に国立市立小中学校知的しょうがい特別支援学級で使用する教科用図書の採択となります。

国立市特別支援学級教科用図書採択要綱に基づき設置されました教科用図書審議会の調査及び審議結果につきましては、7月23日に開催されました教育委員会定例会において、教科用図書審議会委員長から机上に配付しました資料のとおり報告させていただいております。

なお、中学校の各教科の検定本につきましては、資料の発行者名が空欄となっておりますが、先ほど議案第44号で採択いただきました中学校の教科用図書を使用することとなります。

説明は以上となります。ご審議のほど、よろしくをお願いいたします。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ただいま小島指導担当課長からご説明を頂きました。

それでは、審議に入りたいと思います。先ほどございましたように、7月23日開催の定例教育委員会で教科用図書審議会から審議結果の報告を受けたところでございます。改めて各委員からご意見等ございませんでしょうか。

操木委員、お願いいたします。

○【操木委員】 1人1人のニーズに応じて、また可能な限り通常級と同じものをという、そういったこととお聞きしまして、また各学校、各学級の実態に応じて報告がされていると読み取ることができました。

以上です。

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。ほかにこの際ということでございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、こちら採決に入りたいと思います。皆さん、ご異議がないようですので、審議結果報告のとおり採択することよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【雨宮教育長】 ありがとうございます。議案第45号「令和7年度使用国立市特別支援学級教科用図書の採択について」は、審議会の審議結果報告のとおり採択いたします。

以上で、本日の審議案件は全て終了いたしました。なお、次回の教育委員会は定例会を8月20日火曜日、午後2時から、会場は委員会室で開催することが決定しております。

以上をもちまして、本日の臨時会を閉会といたします。傍聴の皆様大変お疲れさまでございました。

午後3時33分閉会